

兵庫の林業

令和7年度県森林林業関係課予算の概要 森林環境譲与税の活用事例



もくじ

県林業関係幹部異動者のあいさつ・	1
県立森林大学校活動紹介（卒業生の進路含む）	2
令和7年度	
林務課予算の概要	3
治山課予算の概要	5
自然鳥獣共生課（野生鳥獣対策関連）予算の概要	8
狩猟免許試験のご案内	9
林業技能講習等のご案内	9
△普及だより▽	
林業事業体と就業希望者をつなぐ	
林業就業相談会の開催について	10
森林環境譲与税の活用事例	11
木材市況・住宅着工数の報告	12
「ひょうごこの木の物語」第11回（裏表紙題字）	
兵庫県知事 齊藤元彦氏	

表紙の写真

県立森林大学校7期生の面々。
大半が県内外の森林組合や林業事業体に就職し、今頃はそれぞれの現場で活躍してくれていること
と思います。

大学校でのチェーンソー伐木技術の総決算として開催した学内伐木チャンピオンシップの合間に集合してもらってパチリ📷、みんな良い笑顔です。

自然環境を守る仕事に誇りを持ち、大学校で学んだ安全な技術を忘れず輝いてくれること、教職員一同応援しています。

農林水産部次長（林政改革担当） 就任のご挨拶

河田 忠紀



このたび、この4月に新設されました農林水産部次長（林政改革担当）を拝命しました河田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

平素は、本県農林水産行政の円滑な推進に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

治山課長就任のご挨拶

福井 康弘



このたび、治山課長を拝命しました福井でございます。日頃より、治山対策及び豊かな森づくりの推進にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、森林は、山地災害の防止などの公益的機能を有しており、県民生活等に密接に関わる重要な役割を果たしています。このため、治山課では、こ

れらの機能を持続的に維持・発揮させるため、以下の対策に取り組んでまいります。

治山対策では、山地災害の復旧はもとより、「第4次山地防災・土砂災害対策計画」に基づき、治山ダム等の重点的な整備や、災害時の避難に役立つ危険情報

鳥獣対策官就任のご挨拶

中川 幸二



このたび、鳥獣対策官を拝命しました中川でございます。

平素は、野生鳥獣の保護管理の推進につきまして、ご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

本県では、市町との連携のもと、森林動物研究センターの研究成果を活かした「個体数管理」、「被害管理」、「生息地管理」を総合的・計画的に推進する野生動物の保護管理（ワイルドライフ・マネジメン

県土の67%を占める森林は、防災や水源かん養だけでなく、水質浄化、温暖化防止など、県民の暮らしを支える様々な公益的機能を有しています。

県ではこのたびの分収林改革を契機として、県民の皆さまのご理解を得ながら、オール兵庫でより公益的機能が発揮される森林管理を進めていくことを目指しております。

県民共通の財産である森林を健全な姿で将来世代に継承できるよう、誠心誠意、改革を進めてまいりますので、今後ともご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

の提供などの減災対策を推進してまいります。

また、人工林の間伐の徹底や里山林の再生を目指す「新ひょうごの森づくり第3期対策（令和4～13年度）」とともに、森林の防災機能の強化を図るため、県民緑税を活用した「災害に強い森づくり第4期対策（令和3～7年度）」を推進してまいります。

さらに、森づくりに関する普及啓発や、保安林制度・林地開発許可制度の適切な運用やナラ枯れ等による森林病虫害対策など森林の保全を一層進めてまいります。

社会情勢の変化や近年の気候変動に伴う災害の激甚化・頻発化などを踏まえると、治山対策や森林の保全・再生の取組を今後も継続して進めていくことが重要ですので、県民の皆様理解を深めていただけるよう努めてまいります。

いずれにしても、皆様方には、様々な場面でご支援をお願いすることになるかと存じますが、今後ともより一層のご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ト）を行っています。

近年、農林業被害額は県全体では減少傾向にありますが、一部の野生鳥獣の生息範囲の拡大等により、被害が拡大している地域があることから、引き続き、狩猟者の確保・育成、シカ・イノシシ対策の強化等を推進します。「県立総合射撃場」を活用した狩猟者向けの研修、ICT技術と被害状況等のデータに基づくスマート獣害対策に取り組むモデル地区の育成等に取り組めます。

また、ツキノワグマ対策として、今年度から市町と連携した被害管理や危険個体の有害捕獲、放獣個体の監視のほか、出沒対策に取り組む人材育成などクマ管理の強化を進めます。

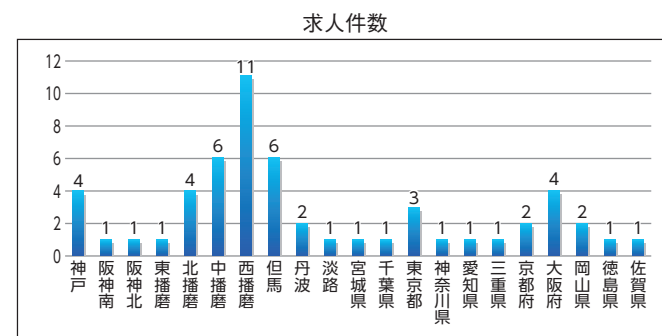
今後とも、皆様方のより一層のご理解とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

兵庫県立森林大学校における人材育成の動向

1 卒業生の進路

令和6年度は、当校に県内外あわせ55者から167名の求人をいただき、この春に卒業した16名のうち9割が森林に関わる道を歩むこととなりました。

就職に向け、イメージを高めるとともにミスマッチとならないよう、1年次にインターンシップ3日間2回、2年次は学外就業体験5日間3回に改編し実施しています。体験先への就職が5割となる貴重な機会ですので、学生の受け入れにつきましてご協力をよろしくお願いします。



令和6年度卒業生 就職状況

森林組合	林業事業体	公務員等	造園関係	その他	計
8	5	1	1	1	16

年 度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	計
入学者数	17	20	18	17	15	17	20	11	1	136
うち県内出身	13	15	15	12	11	12	13	6	1	98

2 入学生の動向

平成29年度の開校以来、令和5年度までは定員20名を概ね確保していましたが、少子化や製造業を中心とした求人増などの影響を受け、令和6年度11名、令和7年度は1名となりました。

令和8年度以降の入学生確保のため、新たに選択科目で「樹上作業基礎」に取り組むなど、カリキュラムの充実を図るとともに、オープンキャンパス日程増加など、学校の魅力発信に努めます。また、入試制度についても指定校推薦の導入や事業体推薦に木材産業分野を追加拡充、日程の見直しなど入試にチャレンジできる機会を増やします。

森林・林業・木材関係で、活躍できる人材を輩出するため、受験生確保へのご支援をよろしくお願いします。

オープンキャンパス

開 催 日	令和7年5月18日（日）	令和7年7月21日（月・祝）	令和7年8月24日（日）	令和8年3月8日（日）
開 催 時 間	10時00分～15時30分			
開 催 場 所	兵庫県立森林大学校（兵庫県宍粟市一宮町能倉772-1）			
内 容	学校案内（概要、就学支援、住宅支援、入学試験）施設・機器展示説明、実習体験、個別相談			
無料送迎バス	行き：JR姫路駅8時30分発、宍粟市役所9時30分経由 帰り：15時30分発、宍粟市役所16時00分経由、JR姫路駅17時00分着			
募 集 締 切	令和7年5月8日（木）	令和7年7月11日（金）	令和7年8月14日（木）	令和8年2月26日（木）

※上記のほか、入学希望者以外も参加可能な「誰でもオープンキャンパス」を別途開催予定です。
詳細は、兵庫県HPで「森林大学校 オープンキャンパス」を検索のうえ、最新の情報をご確認ください。

入学試験（募集人数20名）

	7月入試	10月入試	12月入試	3月入試
入試区分	自己推薦 事業体推薦 一般	指定校推薦 学校推薦	自己推薦 事業体推薦 一般	自己推薦 事業体推薦 一般
募集人数	5名	10名	5名	※定員不足時に実施
試験日	令和7年 7月27日（日）	令和7年10月 5日（日）	令和7年12月14日（日）	令和8年 3月15日（日）
出願期間（必着）	令和7年 6月27日（金） ～ 7月11日（金）	令和7年 9月 5日（金） ～ 9月19日（金）	令和7年11月14日（金） ～ 11月28日（金）	令和8年 2月12日（木） ～ 2月26日（木）
試験時間	10時00分～17時00分（面接順により早く終了する場合あり）			
試験会場	兵庫県立森林大学校		姫路駅周辺（詳細未定）	
試験内容	小論文（400字程度） （推薦：1題、一般：2題） 面接（20分程度）	小論文（400字程度）1題 ※学校推薦のみ 面接（15分程度）	小論文（400字程度） （推薦：1題、一般：2題） 面接（20分程度）	
合格発表	令和7年8月4日（月）	令和7年10月14日（火）	令和7年12月22日（月）	令和8年3月23日（月）

※詳細は、兵庫県HPで「森林大学校 入試」を検索のうえ、最新の情報をご確認ください。



問合せ先：兵庫県立森林大学校 TEL:0790-72-2700

山火事注意！

山火事の原因の多くは、たき火やたばこのポイ捨てなど、火の取扱いの不注意によるものです。
貴重な森林を山火事から守るため、一人ひとりが気を付けましょう！

県ホームページ（右記QR）において、山火事防止の啓発活動を行っています。



令和5年3月 赤穂市大津

県内では、大型製材工場やバイオマス発電燃料による木材需要の増加により、原木生産量は平成25年度の24万m³から令和5年度の59万m³へと大きく増加しています。

このような状況に対応し、必要な需要量を持続的に供給していくため、搬出間伐の促進とともに主伐による原木供給と再造林による資源循環型林業の確立に向けた取組を進めます。

また、市町による森林環境譲与税を活用した非経済林の間伐や「新たな森林管理システム」が円滑に進むよう「ひょうご森づくりサポートセンター」等を通じた市町支援を展開します。

県産木材利用促進については、「兵庫県県産木材の利用促進に関する条例」に基づき、川上から川下までの関係者の連携と協働により、建築用材と燃料用材の2本柱でさらなる利用拡大に取り組みます。

凡 例

【緊急】：森林林業緊急整備事業（県事業名）

【補】：令和6年度県補正予算措置分

【新】：新規事業

【拡】：拡充事業

※金額は令和7年度県当初予算ベース

1 多面的機能の発揮に向けた森林整備

(1) 多様な森林の整備

人工林のうち、育成単層林については、気象災害等に配慮しつつ、間伐等を推進するとともに、地形や地質等により条件の悪い森林については、針広混交林化や天然林へと誘導する等、多様で健全な森林の整備を図る。



主伐・再造林地

また、資源循環型林業の実現に向けて、主伐後の再造林に対する支援を実施する。

造林事業	1,765,000千円
（うち花粉発生源対策）	273,857千円
造林事業（R6当初→R7繰越）	205,568千円
（うち花粉発生源対策）	71,631千円
造林事業（R6経済対策補正）	【補】563,075千円
【緊急】間伐（R6経済対策補正）	【補】216,000千円
【緊急】再造林の低コスト化（R6経済対策補正）	【補】42,000千円
重要水源林機能高度化事業	12,000千円

(2) 施業集約化の促進

森林施業の集約化を促進するため、森林経営計画の作成や森林境界の明確化等を支援する。

森林整備地域活動支援事業 8,093千円

(3) 生産基盤の整備

ひょうご農林水産ビジョン2030の中間目標（令和7年度）達成に向け、令和7年度には、製材工場等に必要



搬出間伐

な316千m³/年の原木と木質バイオマス発電向けの燃料用として見込まれる211千m³/年を合わせた527千m³/年の原木を低コストで安定的に供給できるよう、森林施業の団地化、林道や作業道等の林内路網の整備及び機械化などを支援する。

① 作業道整備及び機械化の推進

【緊急】林内路網整備

【補】258,000千円の内数(TPP関連)

森林資源活用システム整備事業 60,000千円

県産木材利用促進特別融資事業 50,000千円

② 林道整備の促進

ア 幹線林道の開設

森林基幹道開設：須留ヶ峰線、千ヶ峰・三国岳線

イ 支線林道及び路網拠点整備

林業専用道：能栖線、大畑越知線

路網拠点整備：須留ヶ峰線ほか1路線

ウ 林道の機能強化、維持管理

林道改良：瀬川・氷ノ山線ほか11路線

エ 林道施設災害(県営、市町営)

【林道事業費】

公共林道事業費 504,019千円

【補】256,000千円

県単独林道事業費 340,400千円

県単独林道事業費(管理費) 51,033千円

林道施設災害復旧事業費 145,225千円

(4) 採種園の整備

優れた特性をもつ特定母樹由来の苗木(特定苗木)生産体制の構築を行うため、森林林業技術センター緑化センターに採種園を造成整備する。

次世代採種園整備事業 3,000千円

【補】920千円

(5) 林業技術の普及

林業普及指導員による林業技術の普及指導活動や指導林家等・林研リーダー研修等を通じて、地域リーダーや後継者を育成する。

林業技術普及費 4,860千円

2 林業の担い手の育成

(1) 次代の森林林業を担う人材の育成

県立森林大学校において森林経営から森林セラピーや獣害対策に至るまで、森林に関わる人材を幅広く育成する。

また、即戦力となる人材に対して給付金を交付する。

兵庫県立森林大学校運営費 51,567千円

緑の青年就業準備給付金 24,037千円

(2) 林業事業体の育成・確保

収益性の高い低コスト林業経営モデルの確立に向け、県立森林大学校研修科において林業機械高度化コースや森林経営高度化コースなど高度なカリキュラムを実施し、林業事業体における森林施業プランナー、現場技能者等の能力を高めるとともに、林業労働者の就労環境の改善、労働安全衛生の向上を図る。

兵庫県立森林大学校運営費 51,567千円(再掲)

林業労働力育成対策事業 1,148千円

(3) 林業・木材産業の経営基盤の強化

林業・木材産業事業体に対して、低利・無利子の資金を融通することにより、林業及び木材産業の健全な発展、木材生産及び流通の合理化の促進を図る。

林業・木材産業改善資金貸付金 100,000千円

木材産業等高度化推進資金 780,302千円

県産木材利用促進特別融資事業 50,000千円(再掲)

3 県産木材の供給体制の整備と利用拡大

(1) 県産木材の供給体制の整備

品質向上や供給体制の確立に向けた木材乾燥機など木材加工流通施設の整備により、県産木材の品質向上や供給体制の整備を図る。

林業構造改善事業 38,760千円(造林3,000千円が別にあり)

(2) 県産木材の利用拡大

① 公共・民間施設の木造・木質化の推進

展示効果が見込める公共施設や民間施設での木造化、木質化を進める。

また、建築士及び発注者等に対して、非住宅木造建築に関する研修会を開催する。



「ひょうご木の街木質化推進事業」を活用して木質化した民間施設

ひょうご木の街木質化推進事業 12,000千円

非住宅木造建築研修会の実施 500千円

木造を推進する建築士養成講座の実施 5,100千円

② 県産木材を使用した住宅の建設促進

県内工務店による県産木材を利用した魅力的な木造住宅の設計及び「ひょうご木の匠の会」加入工務店グループによる県民向け住宅展示・相談会の開催を支援するとともに、「ひょうごの木の家」設計支援事業について、横架材に県産材を使う設計をした場合、基準補助額300千円/件に100千円/件を加算し、400千円/件を支援し、県産木材の利用意義のPRと県産木造住宅の建築促進を

図る。

「ひょうごの木の家」設計支援事業 51,500千円

「ひょうごの木の家」建築促進事業 2,000千円

③ 県産木材を使用した木製品の普及

県産木材を使用した製品の取扱事業者を「ひょうご木製品マイスター」として登録し、木製品活用事例集等により広く県民に紹介することで、県産木製品の普及・導入促進に繋げ、県産木材の利用拡大を図る。



県産木材製品

【拡】ひょうごの木づくり啓発推進事業 580千円

④ 県産木材の利用意識の醸成

住宅建築を検討している県民等を対象に、山での伐採作業から製材所での加工の様子や県産木材を使った木造住宅等の現地見学及びHPやSNSを通じた県産木材に関する情報発信を通じて、県産木材の利用意識の醸成を図る。また、令和6年度からは、異なる業種・分野・文化の視点を取り入れたブランディングやPRの企画を発案する場である「ひょうごの木」Creation Baseを設置し、県産木材に興味のない県民へのPR強化を図る。

ひょうごの木づくり普及啓発 11,830千円

⑤ 木質バイオマスの利用促進

未利用間伐材等を仕分け・ストックする山土場整備、購入資金等に対して支援するほか、燃料用チップ供給施設の整備を支援する。



木質バイオマス発電所

バイオマスヤード整備事業 1,350千円

県産木材利用促進特別融資事業 50,000千円(再掲)

林業構造改善事業 38,760千円(再掲)(造林3,000千円が別にあり)

4 森林環境譲与税を活用した森づくりの推進

平成31年度から導入された森林環境譲与税を活用し、市町が行う森林整備等を支援する。

(1) ひょうご森づくりサポートセンターの設置

県がひょうご森づくりサポートセンターを設置し、市町が実施する森林経営管理法業務や森林環境譲与税等を活用した森林整備事業業務への助言・指導や、航空レーザー測量データの解析やGIS、ドローン等の技術活用など市町業務を総合的に支援する。

また、市町に加え「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」第15条に規定する建築物木材利用促進協定を締結又は締結する見込みの民間事業者に対しても、木材利用を促進するための技術者の派

遣等を行う。

- ひょうご森づくりサポートセンター設置事業 55,394千円
(2) **森林クラウドを活用した森林情報の高度化**

令和2年度に導入した森林クラウドシステムの適正な運用を行うとともに、システムに搭載する森林情報の精度向上を図り、円滑な森林整備の実施につなげる。

- 森林クラウド活用情報高度化事業 30,176千円
(3) **県立森林大学校を活用した市町職員養成講座の実施**

市町職員の専門能力向上を目的とした養成講座（森林林業の概要と実務、木材利用の実務、森林GIS等）を実施する。



市町職員養成講座

森林大学校を活用した市町職員養成講座の実施 7,148千円

- (4) **林業災害防止研修の実施**

急増する急傾斜地等の条件不利地での立木伐倒作業等を安全に行う技術指導ができるリーダー人材を育成する。

伐倒練習機等を活用した林業災害防止研修の実施 1,792千円

- (5) **リモートセンシング技術者養成研修の実施**

森林整備の急激な増加に対応するため、ドローン等を活用したリモートセンシング技術習得による測量業務を安全かつ円滑に実施するリーダー人材を育成する。

リモートセンシング技術者養成研修の実施 1,100千円

- (6) **県産広葉樹苗木生産者育成研修の実施**

県産広葉樹苗木需要の増加に対応するため、生産者の確保及び技術継承を目的に、苗木生産技術習得に係る研修会を実施する。

県産広葉樹苗木生産者育成研修の実施 976千円

- (7) **ひょうごの森づくり・木づかい普及啓発**

県民の森林環境税への理解を深めるため、森林環境税の趣旨や森林の公益的機能、木材利用の意義、市町の森林環境譲与税を使った取組等を紹介するフェアを開催する。

森づくり・木づかいフェア開催 1,700千円

- (8) **Jクレジット制度普及啓発**

市町のJクレジット制度活用を取組を推進するため、制度の普及啓発及びJクレジット発行に向けた資料作成を支援する。

さらに、クレジット販路の拡大に向けた取組として、クレジット購入企業向けのセミナーを開催し、企業とプロジェクトとのマッチングを促進する。

Jクレジット制度取組支援事業 3,300千円

令和7年度 林務課 主な事業 当初予算額
23,790,969千円（対前年度比 95.6%）
（+繰越R6→R7）25,485,215千円（対前年度比 95.9%）

令和7年度 治山課

予算の概要

治山課では、森林の持つ公益的機能が高度に発揮されるよう、近年、激甚化する山地災害への対策、豊かな森づくりの推進に取り組みます。

- 山地災害への対策では、国の国土強靱化加速化対策とあわせて県の「第4次山地防災・土砂災害対策計画（令和3年度～令和7年度）」に基づき、人家等保全対策や流木・土砂流出防止対策として治山ダム等の整備を進めます。また、山腹斜面对策として、土留工や法枠工、落石防護柵等の設置を進めます。

あわせて森林の持つ公益的機能の維持向上を図るため、過密化等した保安林での森林整備を行います。

ソフト面では、山地災害危険地区の情報発信や山地防災教室の開催、地域での防災マップ作成等の減災支援対策などを行い、県民の避難行動に役立つ情報を提供します。

このような取組みから地域の防災力の向上を図り、総合的な山地防災・減災対策を推進します。

- 豊かな森づくりの推進では、「新ひょうごの森づくり第3期対策（令和4年度～令和13年度）」に基づき、人工林の間伐対策や里山林の再生、及び県民総参加の森づくりの推進を基本に、森林の持つ公益的機能の高度発揮を図ります。

また、近年の記録的豪雨や台風による災害の甚大化、頻発化など依然として災害リスクは高まっており、今後も危険渓流等での継続的な対策が必要不可欠です。

このことから、県民緑税を令和3年度から5年間延長し、森林の防災機能を高める「災害に強い森づくり第4期対策（令和3年度～令和7年度）」に取り組み、渓流での流木・土石流被害対策として、簡易流木止め設置や、危険木伐採などの里山防災林整備等を進めていきます。

さらに、森林の保全・管理として、林地開発許可制度の適切な運用等や、森林病虫害被害対策に取り



人家等保全対策を目的とした治山ダム（三田市）



企業の森づくり（姫路市）

組み、県民の安全・安心な暮らしを守る「ひょうごの豊かな森づくり」を推進していきます。

1 治山対策の推進

- (1) **「第4次山地防災・土砂災害対策計画」の着実な推進（R3～R7年度）**

第4次山地防災・土砂災害対策計画 着手箇所数（箇所）

区 分	全体計画	R7計画
人 家 等 保 全 対 策	3 6 5	7 3
流木・土砂流防止対策	2 2 0	4 5
計	5 8 5	1 1 8

- (2) **治山施設の長寿命化対策の推進**

令和2年度に策定した個別施設計画に基づき、既存治山施設の機能強化や長寿命化対策、並びに再点検を進める。

- (3) **森林整備の推進**

森林の過密化等により機能が低下した保安林を対象に、本数調整伐等の森林整備を推進する。

【治山事業費】

公共治山事業費	3,812,100千円
県単独治山事業費	265,000千円
県単独緊急防災事業費	1,579,000千円
計	5,656,100千円
（別途6年度補正予算	543,000千円）
「防災・減災、国土強靱化のための5カ年加速化対策」活用	



山腹工による保安林復旧（猪名川町）



高校生への防災講座（神戸市）

2 新ひょうごの森づくり第3期対策の推進

（R4～R13年度）

- (1) **森林管理100%作戦**

間伐が必要な60年生以下のスギ・ヒノキ人工林について、国の公共造林事業による間伐の補助残額を県・市町が連携して公的負担を行い、森林管理の徹底を図る。



間伐を実施した人工林（丹波市）

- ・「森林管理100%作戦」推進事業[間伐：1,000ha]
12,436千円（※緑化基金）

※緑化基金：（公社）ひょうご農林機構が管理する緑化基金を財源として執行

- (2) **里山林の再生**

集落周辺の生活環境や景観の改良のため、地域住民等による森林整備活動に対し、資機材の購入等の支援を行い、健全な里山林への誘導を図る。

（里山林活性化による多面的機能発揮対策交付金と一体的に実施）

- ・住民参画型里山林再生事業[240ha]
6,475千円（※緑化基金）



地域住民による里山林整備（神戸市）

- (3) **多様な担い手による森づくり活動の推進**

農村の過疎化や高齢化等により維持管理が課題として顕在化しつつある里山林を守り育てる意識醸成の場として、「ひょうご里山フェスタ」を開催する。

また、森林ボランティアの養成や、企業・団体等が社会貢献活動の一環として行う森づくり活動を支援し、「県民総参加の森づくり」を推進する。

- ・「ひょうご里山フェスタ」の開催
1,020千円（※緑化基金）

- ・森林ボランティア養成講座の開催 1,000千円
・企業の森づくり推進 1,226千円（※緑化基金）



ひょうご里山フェスタの開催（宝塚市）

3 災害に強い森づくり第4期対策の推進（R3～R7年度）

緑の保全及び再生を社会全体で支え、県民総参加で取り組む仕組みとして、県民税超過課税である県民緑税を活用し、「災害に強い森づくり」を推進する。

【県民緑税充当事業】

- ・緊急防災林整備 685,169千円
[斜面对策：900ha、渓流対策：調査箇所20箇所、森林整備20箇所]

- 針葉樹林と広葉樹林の混交整備 294,000千円
〔計画調査設計175ha、作業道開設205ha、
広葉樹植栽205ha〕
- 里山防災林整備 528,360千円
〔基本計画調査200ha、整備200ha〕
- 野生動物共生林整備 291,946千円
〔基本計画調査360ha、森林整備361ha〕
- 住民参画型森林整備 27,000千円
〔森林整備20ha〕
- 都市山防災林整備 61,000千円
〔基本計画調査40ha、森林整備40ha〕



針葉樹林の一部を伐採して
広葉樹を植栽（栄栗市）



災害緩衝林と簡易流木止め
施設の整備（市川町）

4 森林とふれあう公園の運営

- 三木山森林公園及びふるさとの森公園（地域住民・ボランティア等が中心となり運営）において、森づくり活動や自然観察のプログラム等の実施により、身近に自然と触れあう場を提供する。
- 三木山森林公園管理運営事業 110,345千円
 - ふるさとの森公園管理運営事業〔6公園〕 194,635千円

5 県有環境林の管理

- 乱開発の抑制等を図るために取得し、良好な地域環境の保全等に寄与してきた山林について、森林の持つ公益的機能に着目し、県有環境林として適切な管理を行う。
- 県有環境林管理事業〔14地区2,285ha〕 61,338千円

6 森林の保全・管理

- (1) 保安林の指定等
- 治山事業施行予定地などの保安林指定を進めるとともに、公益的機能の維持・増進に資する保安林の森林施業の確保、標識設置や伐採等の行為制限により保安林の適正な管理、保全を図る。
- 保安林等整備管理費 8,184千円
- (2) 適正な開発行為への誘導
- 森林が持つ公益的機能を確保するため、地域森林計画対象森林における許可制度の適正な運用に

- より、森林の保全を図る。
- 林地開発許可制度実施費 533千円

- 盛土規制法の対応（県まちづくり部）
- 熱海市の土石流災害を受け、令和5年5月に盛土規制法が施行された。令和7年4月に規制区域が指定され、運用が開始されたところである。

(3) 森林の保全巡視

- 保安林等の森林において、無許可の伐採や開発行為等の早期発見、林野火災の予防啓発等を目的として「森づくり指導巡視員」を県民局・県民センターに配置し、森林の保全、啓発を行う。
- 新ひょうごの森指導巡視事業 9,578千円

7 森林病害虫被害対策の推進

(1) ナラ枯れ被害対策

- ナラ枯れによる倒木落枝による人的な二次被害が予想される森林、保安林等防災機能の高度発揮を求められる森林、景観悪化が懸念される森林において重点的に病害虫駆除等を実施する。
- その他法定病害虫駆除事業 23,936千円



伐倒駆除（三木市）

(2) 松くい虫被害対策

- 保安林等の公益的機能の高い松林等を防除区域と定め、地上散布及び樹幹注入等の予防対策と、伐倒駆除や造林事業（衛生伐）の駆除対策、枯れ松の伐倒を組み合わせ、松林機能の保全を図る。
- 予防対策（地上散布、樹幹注入） 8,348千円
 - 駆除対策（伐倒駆除、特別伐倒駆除） 14,535千円
 - ひょうご元気松植栽事業 1,100千円
 - 森林病害虫防除予防推進費 358千円
 - 県単独松くい虫被害等景観対策事業 12,124千円
 - 計 36,465千円



ひょうご元気松の植栽
（南あわじ市）

令和7年度 治山課 主な事業 当初予算額
7,989,589千円 （対前年度比102.6%）※

令和7年度 自然鳥獣共生課 （野生鳥獣対策関連）予算の概要

野生動物被害防止総合対策の推進

シカ・イノシシの捕獲拡大により農林業被害は全体的には減少傾向にありますが、被害が増加している地域もあるため、地域の実情に応じた野生動物の①個体数管理、②被害管理、③生息地管理を総合的・計画的に進めます。

1 シカ・イノシシ被害対策の推進

- 被害が大きく狩猟者が少ない地域等での有害捕獲の強化、狩猟期間中の捕獲の推進、集落ぐるみの被害対策に対する支援を実施します。
- (1) 鳥獣被害防止総合対策事業等 440,597千円
- 被害集落自らによる獣害防護柵の設置・点検・管理や野生動物の潜み場となる茂みの刈り払い等の被害対策の実施、出沒を繰り返すシカ・イノシシ等の捕獲活動を促進するとともにICTを活用した捕獲と被害対策を担う現地アドバイザーの派遣を行います。また、市町職員の対策技術・知識向上のための実践研修を実施します。



【集落での獣害防護柵設置】

- (2) 捕獲の拡大 548,569千円
- シカ4.6万頭、イノシシ2.5万頭の捕獲達成に向け、市町による有害捕獲に加え、狩猟期の捕獲報償金による捕獲促進、高標高等の有害捕獲が困難な地域での捕獲を推進します。また、ICT活用わな等の導入促進により捕獲を強化します。
- (3) シカ丸ごと1頭活用大作戦 134,886千円
- 捕獲したシカを食肉など地域資源として有効活用を図るため、処理加工施設等の整備、捕獲個体の処理加工施設への搬入・回収支援、冷凍車等の導入を支援します。ひょうごジビエの日（毎月6（ロク＝鹿）日、16（シシ＝4×4）日、第4火（シカ）曜日）の普及啓発により、食肉・ペットフード等へのシカ肉の需要拡大を図ります。さらに、販売ロットの確保とコスト削減を図るた

め、県内の処理加工施設のネットワーク化によるシカ肉、皮、角の広域的な集荷・流通を支援します。加えて、ジビエ普及のため、ジビエイベントの開催や、小中学校の学校給食へのシカ肉提供による試食機会を創出します。



【ジビエイベント（文鹿祭）】

- 2 ツキノワグマ出沒被害対策の強化 36,249千円
- 生息数が増加しているツキノワグマの集落への出沒や人身事故の発生を防止するため、市町による出沒対応マニュアルの作成支援や、不要果樹の除去、集落周辺部での有害捕獲の強化、追い払い等を実施します。
- 3 サル被害対策の強化 1,470千円
- 追い払い効果がない加害個体の捕獲を強化するとともに、市町でのサル群の動向追跡による出沒情報の提供等を行うサル監視員の設置を支援します。
- 4 カワウ被害対策の強化 5,345千円
- アユ食害を与えているカワウの適正管理のため、「カワウ管理協議会」における関係機関（市町、猟友会、漁協等）の連携を進め、市町による営巣地での繁殖抑制や飛来地（銃猟可能なシューティングポイント）での捕獲等を支援します。また、銃器を使用しない新たな捕獲技術の検証を行います。
- 5 狩猟後継者の確保・育成 58,905千円
- 狩猟への関心を高める狩猟体験会の開催、初心者向けの狩猟への理解を深めるPR等の実施により、狩猟者の確保を進めるとともに、高い技術を有する有害鳥獣捕獲者（カラー）の育成を進めます。また、狩猟者の確保や、県立総合射撃場（三木市吉川町）を活用した、安全意識の高い狩猟者の育成、経験・技量や獣種に応じた捕獲技術の習得を進めます。

令和7年度 鳥獣対策関連予算額

・野生動物保護管理費 1,226,021千円
（対前年度比 100.7%）



※イラスト（シカ）：兵庫県森林動物研究センター提供

令和7年度狩猟免許試験のご案内

兵庫県では、今年度も次のとおり狩猟免許試験を実施します。多くの方が免許を取得されますよう、ご案内いたします。

【狩猟免許とは】

狩猟期間中にシカやイノシシなどの狩猟鳥獣を捕獲するのに必要な資格です。

また、県や市町の許可を受けて実施する有害鳥獣捕獲にも原則必要です。

【狩猟の楽しみと公益性】

狩猟は、ハンティングや料理を楽しむという魅力のほか、農林業被害を与える野生動物の生息頭数を適正に管理するという公益性も兼ね備えています。

【免許の種類】

- ・網猟（主に鳥類）
- ・わな猟（獣類のみ）
- ・第一種銃猟（装薬銃・空気銃）
- ・第二種銃猟（空気銃）

【試験の日程と場所】

1～4回目

◇申込期間：5月19日(月)～5月30日(金)

◇試験日及び場所

- ①7月5日(土) 洲本市 ※網・わな猟試験のみ
- ②7月12日(土) 養父市



- ③7月18日(金) 姫路市
- ④7月26日(土) 神戸市

5～7回目

◇申込期間：7月28日(月)～8月8日(火)

◇試験日及び場所

- ⑤9月6日(土) 神戸市
- ⑥9月12日(金) 姫路市
- ⑦9月20日(土) 神戸市

8回目

◇申込期間：9月29日(月)～10月10日(金)

◇試験日及び場所

- ⑧11月8日(土) 神戸市 ※わな・第一種銃猟のみ

【お問い合わせ先】

兵庫県 環境部 自然鳥獣共生課
☎078-362-9084



初心者狩猟講習会のご案内

狩猟免許試験を受験される方を対象に、一般社団法人兵庫県猟友会が知識・技能に関する講習会を実施する予定です。

日時・場所については、5月以降に兵庫県猟友会のホームページでお知らせいたしますので、各自ご確認ください。

【お問い合わせ先】

(一社)兵庫県猟友会 ☎(078-361-8127)

令和7年度 実施計画

区分	名 称	実施年月日	開催場所
技能講習	木材加工用機械作業 主任者技能講習 登録先：兵庫労働局 登録番号：兵労基安 登録第46号 登録の有効期間満了日：2029年3月30日	令和7年 8月 5日(火) ～ 6日(水)	姫路労働会館 (姫路市北条)
特別教育	伐木等の業務に係る 特別教育 (チェーンソー作業従事者)	令和7年 5月20日(火) ～22日(木)	<学科> 中はりま森林組合 会議室 (神崎郡神河町) <実技> 中はりま森林組合 製材工場跡地 (神崎郡神河町)
		令和7年 7月 9日(水) ～11日(金)	
		令和7年10月29日(水) ～31日(金)	
	車両系木材伐出機械等 運転業務特別教育*	<学科> 令和7年 7月23日(水) ～25日(金)	中はりま森林組合 会議室 (神崎郡神河町)
安全衛生教育	刈払機取扱作業 安全衛生教育 ※原則として車両系建設機械 技能講習修了者であること	<実技> 令和7年 8月20日(水) ～22日(金)	中はりま森林組合 製材工場跡地 (神崎郡神河町)
安全衛生教育	刈払機取扱作業 安全衛生教育	令和7年 6月11日(水)	中はりま森林組合 会議室 及び 土場 (神崎郡神河町)
		令和7年 7月18日(金)	
		令和7年 9月 5日(金)	

※この計画は予定であり、今後、疾病感染対策、そのほかの理由により、日程及び会場等を変更する場合があります

令和7年度の技能講習・特別教育等のご案内 林業・木材製造業労働災害防止協会 兵庫県支部

1 はじめに

当支部では、林業・木材製造業の労働災害防止のため、労働安全衛生法に定められている林業・木材製造業の作業に従事するために必要な技能講習、特別教育等を開催しています。令和7年度は、右表の実施計画のとおり開催する予定ですので、関係する方々の受講をお願いします。

2 お申し込み方法

開催日1か月前を目途に、当支部のウェブサイトで開催案内を掲載しますので、申込要領に沿ってお申し込みください。

3 お申し込み先、お問い合わせ先

〒650-0012

神戸市中央区北長狭通5-5-18

林業・木材製造業労働災害防止協会 兵庫県支部
(兵庫県木材業協同組合連合会内)

TEL 078-371-0607



<https://www.hyogomokuren.jp/rinsaibou/>

普及だより

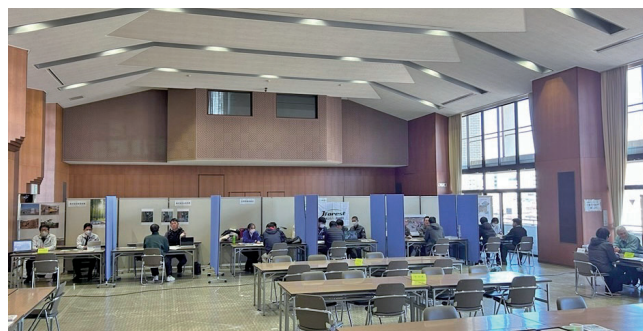
林業事業体と就業希望者をつなぐ林業就業相談会の開催について

西播磨県民局 光都農林振興事務所

1 はじめに

西播磨は、県内で最も多くの林業事業体が集中する林業の盛んな地域です。近年では新たな事業体も誕生するなど、今日の人手不足と相まって林業労働者の安定した確保が課題となっています。

そこで、西播磨県民局では林業の担い手確保の一環として、林業事業体と林業分野への就業希望者をつなぐ「林業就業相談会」を開催しましたので、その取組内容を紹介します。



会場全体の様子

2 開催概要

(1)日 時 令和7年1月18日(土) 11:00～15:30

(2)場 所 兵庫県立姫路労働会館

(3)出展者 10者(内訳：森林整備関係6、木質バイオマス関係2、行政・学校関係2)

(4)参加者 9人(内訳：男性7、女性2)

(5)内 容

会場には林業事業体ごとに相談ブースを設け、参加者は自由に興味のある相談ブースへ行って、情報収集及び意見交換できる仕組みとしました。

併せて、チェーンソー等の林業グッズの展示や兵庫県立森林大学の紹介など、林業未経験者を林業分野への就業にスムーズにつなげるための広報活動も行いました。



相談ブース(森林整備関係)

3 考察及び波及効果

相談会終了後の参加者及び出展者へのアンケート結果を要約すると、参加者側では「今後の参考になった」など、おおむね満足の結果でした。一方、出展者側では「学生とじっくり話ができて良かった」といった満足の声と併せて「学生以外の来場者が少ない」といったやや不満の声も散見されました。

参加者の内訳は、学生が7名、一般の方が2名でしたので、一般の方にとって魅力的な相談会をいかに構築できるかが今後の課題といえます。

今後の改善に向けては、林業の活動拠点が山間部であることから住居の確保に向けた支援など「移住を支援する部局との連携」や、対象者を絞り込んで効果的な戦略を講じる「マーケティング手法の導入」も有効ではないかと思われます。



相談ブース(木質バイオマス関係)

4 今後の取組

令和7年度からは、全県を対象とした枠組みで実施する方針となっているため、これまで西播磨県民局で培った知見やノウハウの情報提供を通じて新たな活動を支援していきたいと考えています。

また、森林大学のオープンキャンパスとの同時開催である「林業体験会」を通じて林業の魅力を発信するなど、これからも林業の担い手確保に努めていきます。



林業グッズの展示
(森林第1課 有元 正彦)

森林環境譲与税の活用事例

林務課林政調整班

西宮市（林縁部の危険木の調査・伐採の実施）

令和4年度

- 西宮市では、住宅地と隣接する林縁部については、倒木等により住宅や道路等の施設に被害を出す恐れのある危険木が存在している。また、これらの場所については、樹林の手入れが行き届かず、生物多様性をはじめとする森林の持つ多面的機能の低下が懸念される。
- このため、林縁部の危険木の調査・伐採を実施。

事業内容

林縁部の危険木の調査・伐採の実施

- 住宅・公共施設・道路沿いの森林について、樹木の分布位置と樹高から、倒木により住宅地等に被害を与える恐れのある樹木（幹周40cm以上）を対象に現地調査を行い、枯れや傾斜等の状態の評価を行い危険木と判定して翌年度の伐採対象とした。
- また、フェンスや電線に干渉するなど周辺施設へ支障になっている調査木は支障木と判定して翌年度の剪定及び伐採対象とした。

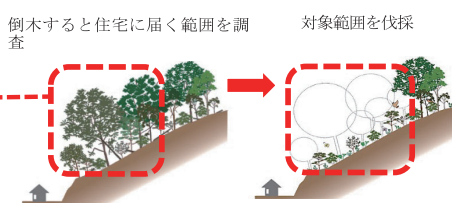
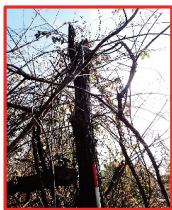
- 前年度に調査した樹木について、伐採等を実施した。

【事業費】10,780千円（全額譲与税）

【実績】調査対象樹木：1,036本
うち、危険木と判定した樹木：101本
支障木と判定した樹木：42本
伐採等処理木：危険木162本、支障木51本

取組の背景

- 近年、豪雨や台風等の自然災害が頻繁・激甚化していることから、倒木の恐れがある危険木の伐採が急務とされている。



（林縁部の危険木調査のイメージ）

工夫・留意した点

- 緊急度が高いものなど、剪定及び伐採を行う際に優先順位を付けるように調査項目ごとに評価をつけた。
- 樹木の位置や周辺の対象物、搬出ルートをGISデータ化して、位置関係が分かるような図面を作成した。
- 単に危険木を調査するだけでなく、調査時に職員による現地確認も同時に行うことで、次年度以降に予定している面としての森林整備に必要な箇所などの候補も検討した。

取組の効果

- 倒木による住宅地等への被害を防ぐことができた。
- 面としての森林整備が必要な箇所の把握も同時にできることから、単発の事業として単年で完結させるのではなく、次年度以降の森林整備にもつなげることができた。
- 適度な更新を目指した整備を実施により、当該場所における将来における森林の持つ多面的機能の向上が期待できる。

基礎データ

①令和4年度譲与額	52,400千円
②私有林人工林面積（※1）	97ha
③林野率（※1）	36.9%
④人口（※2）	485,587人
⑤林業就業者数（※2）	9人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2年国勢調査」より

養父市（環境保全型森林整備事業の創設）

令和4年度

- 養父市では、森林の有する公益的機能の高度発揮と良質な木材生産を両立させるため、従来から林業事業体が実施している「高生産性林業」と長伐期多間伐施業により持続的な森林経営を目指す「自伐型林業」の両輪で市内全域の経済林化を図っていく方針。
- 事業体や森林所有者が実施する森林経営計画が策定困難な小面積森林の間伐や作業道開設、自治会や森林所有者が実施する県民緑税事業の採択要件を満たせないと判断される集落に近い里山の間伐、緩衝帯設置及び危険木伐採に対する補助制度を創設した。
- 当該補助金の活用により、森林整備（間伐）A=73.20ha、作業道（W=2.5m以下）L=2,526m等が追加的に整備された。

事業内容

環境保全型森林整備事業補助金

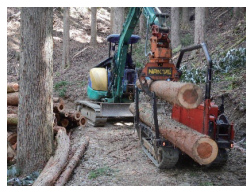
【補助金概要】

- 間伐（伐り捨て）140,000円/ha（遠隔地による加算：最大15,000円/ha）
- 間伐（搬出）420,000円/ha（遠隔地による加算：最大100,000円/ha）
- 緩衝帯設置 事業区域1haあたり限度額 600,000円
- 作業道開設 2.00m≦w<2.50m 2,000円/m
1.50m≦w<2.00m 1,500円/m
- 危険木伐採 補助率75%（1箇所当たり補助金限度額 750,000円）

【事業費】28,310千円（全額譲与税）

【実績】

- 間伐（伐り捨て）A=63.01ha（対象者31名）
- 間伐（搬出）A=10.19ha（対象者10名）
- 緩衝帯設置 A=0.98ha（1集落）
- 作業道開設 L=2,526m
- 危険木伐採 N=148本（21件）



（間伐：材の搬出）

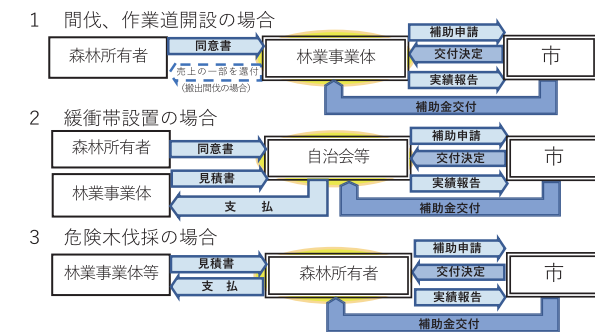


（間伐：出来高測量）



（作業道開設）

事業スキーム



工夫・留意した点

- 間伐補助金等の実績報告には出来高測量図面を添付することとしており、当該補助金は自伐型林業者の積極的な活用が見込まれるため、市が継続的に実施している「自伐型林業研修」にコンパス測量の研修を追加した。

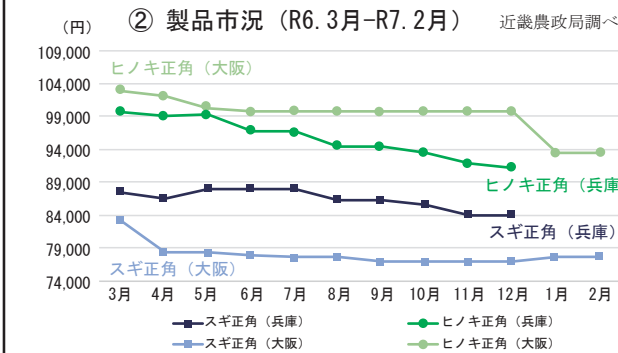
基礎データ

①令和4年度譲与額	70,199千円
②私有林人工林面積（※1）	17,563ha
③林野率（※1）	84.1%
④人口（※2）	22,129人
⑤林業就業者数（※2）	89人

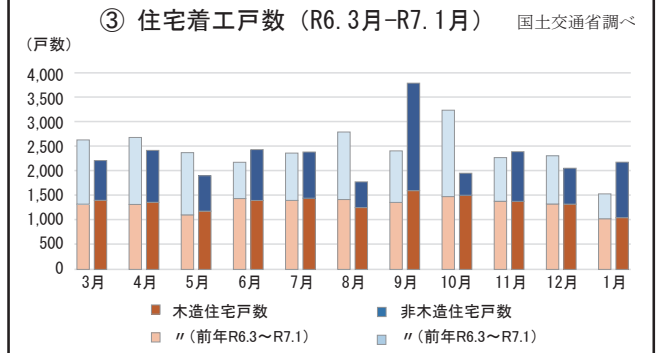
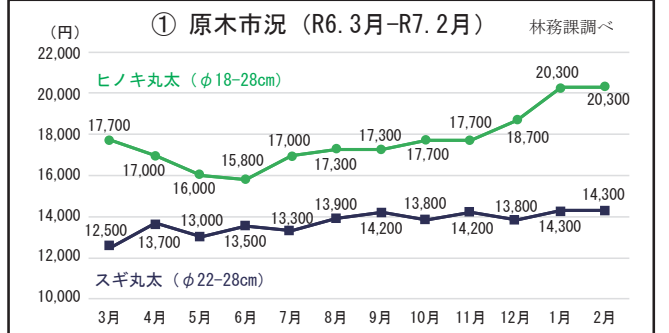
※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2年国勢調査」より

＜兵庫県内の原木市況・製品市況・住宅着工戸数＞

- 原木は、年末から年明けにかけて入荷量が減ったことから、特にヒノキの価格が上昇した。スギは、8月以降は14,000円前後で推移している。
- 製品は、関西のプレカット工場の稼働が年末で一区切りついたことから、価格の低迷が続いている。一方で、原木不足の背景から、県外では製品価格の値上げを模索する動きもでてきている。
- 令和6年の県内の新設住宅の着工戸数は、およそ1割減であったが、木造住宅の着工戸数は、前年並みを維持した。



※木材流通統計調査（近畿農政局調べ製品価格）について、令和7年1月から兵庫県が調査対象外となったことから、以降の兵庫県製材品価格についての記載はありません。



土・木・緑・そして人
とりもどそう 人にやさしい環境

株式会社 グリーン興産

〒671-4141
兵庫県東粟市一宮町東河内1003
TEL 0790 (72) 1553 FAX 0790 (72) 2327

GREENKOUSAN

営業品目
森林部門 …… 素材生産・森林整備・危険木伐採
土木部門 …… 公共土木・一般土木工事
緑化部門 …… 公共緑化工事・一般造園工事
建築部門 …… 新築・リフォーム・エクステリア工事
E-mail: info@greenkousan.co.jp
URL: http://www.greenkousan.co.jp

森林整備・造園・法面・土木・設計施工管理

緑と笑顔が私たちの基本です

株式会社 西村風晃園

豊岡本社 〒688-0051 兵庫県豊岡市九日市上町846-1
TEL (0796) 23-5611 FAX (0796) 22-4529
URL [http://fuukouen.com] E-mail [seifuu@skyblue.ocn.ne.jp]

・姫路本店
・神戸営業所



水源地域で公益的機能が発揮される森林を育成しています
緑をはぐくみ 水をつくる

国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林整備センター Forest Management Center

水源林造成事業

- 国民生活に不可欠な水の安定供給や国民の生命・財産を守るため**奥地水源地域**で水を育む**森林を造成**しています。
- 奥地水源地域の保安林の、土地所有者自身による森林整備が困難な木の生えていない荒れ地で、**公的なセーフティネット**として森林を造成しています。
- 森林を再生し、水源かん養や土砂流出・崩壊の防止を通じて「**緑のダム**」としての機能を確保しています。

神戸水源林整備事務所 TEL(078)362-5800
兵庫県水源林造林協議会 TEL(078)351-3341
〒650-0012 神戸市中央区北長狭通 5-5-18 (兵庫県林業会館5階)

詳しくはWebサイトをご覧ください **森林整備センター** 検索

物品・役務等 入札情報 採用情報 分収造林契約をお考えの方







あなたの町の森づくり・木材利用・木育をサポートします
ひょうご森づくりサポートセンター

森林環境譲与税や森林経営管理法に関すること、県産材や地域産材の利活用に関することなど、何でもお気軽にご相談下さい。

神戸市中央区北長狭通 5-5-18 ひょうご森づくりサポートセンター URL: <https://www.hyogoforest.or.jp/sc/>
森林整備: ☎ 078-599-5425 (ひょうご森林林業協同組合連合会内)・木材利用等: ☎ 078-371-0607 (兵庫県木材業協同組合連合会内)





災害のない安全で安心な社会

- 治山、林道、造林事業の推進
- 山地防災・土砂災害対策計画

一般社団法人 兵庫県治山林道協会
〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5丁目5-18
TEL: 078-371-0210 FAX: 078-371-6632
HP [兵庫県治山林道協会](#)







エムシー緑化 の松枯れ防除剤

松枯れ防止樹幹注入剤
マツガード®
マツガードクイック®
ハダニの適用拡大

販売元 **正和商事株式会社**

マツノマダラカミキリ後食防止殺虫剤
マツガードフラッシュ®

〒541-0045 大阪市中央区道修町1丁目3番4号
TEL 06-6203-4541 FAX 06-6203-4347



ひょうご木の匠の会
兵庫県産木材の家



ひょうご木の匠の会 会長 日置 尚文 (日置建設(株))
(事務局) 神戸市中央区北長狭通5-5-18 兵庫県林業会議
<https://hyogo-kinotakumi.com> TEL: 078-351-3341

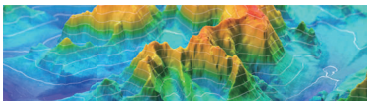
私たちは、兵庫県産木材を使い、人と環境に優しい木造住宅を提案し建築します。



“治山・林道測量”
は経験と実績のある
株式会社 石原測量コンサルタント

〒671-2542 兵庫県宍粟市山崎町船元250-1
Tel (0790) 63-1377
FAX (0790) 63-1398
E-Mail ishisoku-y@wine.ocn.ne.jp

国土交通省登録第24891号
県知事許可(般-2)第461481号





緑の募金へのご協力をお願いいたします

いつも緑の募金にご協力いただき、ありがとうございます。
緑の募金は、森林ボランティア活動への支援や、子どもたちの環境学習などに活用しています。
ご協力いただける場合は、次の方法でお願いいたします。

ご寄附の方法

- 金融機関からのお振込み
①郵便局 (手数料不要)
専用の払込取扱票をお送りしますので、当協会にご一報ください。
②銀行 (手数料必要)
口座: 三井住友銀行 兵庫県庁出張所
普通 3198438 公益社団法人兵庫県緑化推進協会
- キャッシュレス決済 (手数料不要)
ソフトバンクの「つながる募金」からキャッシュレスでご協力いただけます。



募金のページQRコード

●賛助会員入会のご案内●
私たちの活動を応援して下さる賛助会員を募集しています。
入会金は不要です。
会員としてご支援いただきますようお願いいたします。(1口10,000円/年)

◇お問い合わせは◇
公益社団法人 兵庫県緑化推進協会
〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5丁目5番18号
TEL 078-341-4070 FAX 078-341-4071
HP <https://hyogo-green.net/>
[兵庫県緑化推進協会](#) 検索





■540XPMarkⅢ ■T540XPMarkⅢ




■質量: 4.1kg ■質量: 3.8kg
■排気量: 39.1cm³ ■排気量: 39.1cm³
■出力: 2.8KW ■出力: 2.8KW

本当の価値がわかる方へ!
最高のパワーウェイトバランスで耐久性も抜群。
生産性をさらに高めるチェーンソー
革新的な技術を融合し、これまで以上の加速とトルクで他に類のない鋸断能力を発揮します。
新登場540XPMarkⅢ、ぜひお試しください。

愛林興業株式会社
本社 姫路市飾磨区恵美酒294-3 TEL (079) 234-8181(代)
神崎店 神崎郡神河町吉富1409-2 TEL (0790) 32-0570番
但馬店 養父市上野1357 TEL (079) 664-2101番

ひょうごの木物語

第11回 千年の歴史と先人の思いを紡ぐ杉原紙

「杉原紙研究所」(多可町加美区鳥羽)

概要

杉原紙はクワ科の落葉低木コウゾ(楮)の樹皮を原料とし13もの手づくり工程を経て和紙に仕上げられます。地元で採れるコウゾは他産地より白く、「川さらし」作業により、その白さに磨きがかかります。また紙を漉く時には、アオイ科の一年生植物トロロアオイの根の粘液を加えることにより、繊維を均等に分散させ厚みの揃った薄く白く美しい紙とします。

さらに、封筒や名刺入れ、小物入れなどに加工され隣接の道の駅等にて販売されるほか、地元の小中高校の卒業証書や賞状等にも使われています。

歴史

奈良時代から優れた造紙技術があったといわれていますが、文献上は永久4年(1116年)関白藤原忠実の日記『殿暦』に杉原紙百丈(約5千枚)を贈ったと記されています。鎌倉幕府では、公用紙にも用いられ江戸中期には一般庶民にも普及し生産量もピークを迎えましたが、明治以降、機械漉き技術や西洋紙の普及に



1 皮はぎしたコウゾを杉原川の冷たい水に晒す冬場の作業

より徐々に衰退していきます。大正14年には和紙職人が次々と転業した結果、紙漉きの歴史は途絶えましたが、昭和15年、和紙研究家の新村出・寿岳文章両博士、郷土史家藤田貞雄氏や最後の紙漉き職人らの復活運動が実り、昭和45年に町立杉原紙研究所が建設され再興に乗り出し、現在55年を経ています。

和紙の製造工程

①コウゾ刈 原木のコウゾは葉が散る12~1月に収穫します。②コウゾ蒸し 1mに切り揃えたコウゾを大きな桶で1時間半ほど蒸します。③皮はぎ 蒸したコ



剥いだ黒皮と白皮

黒皮取り作業

ウゾを手で皮を剥ぎ取ります。④黒皮取り 黒皮を削り取り白皮だけを使います。



杉原川べりにある杉原紙研究所の全景 橋渡り左は和紙博物館

⑤川さらし 杉原川に一昼夜浸してさらします。⑥きず取り 白皮のキズ(虫食い等で黒ずんだ繊維)をハサミで取り除きます。紙の品質に関わる重要な作業です。



きず取り作業

白皮を煮る大きな釜

⑦釜たき 白皮を1日間水に浸し、1時間半ほど煮ると手でちぎれるほど柔らかくなります。⑧コウゾみだし 煮えた白皮は清水でアクを洗い流し、繊維に残るチリなど不純物を除去します。⑨紙たたき 白皮の繊維をほぐすため、機械やたたき棒で叩きます。⑩トロロアオイ添加 ほぐれた繊維に加えてよくかき混ぜます。⑪紙漉き 漉き舟の中で簀桁という道具で紙料を掬い、前後左右にゆすりながら紙を漉いていきます。⑫紙干し 鉄板に貼り乾かします。⑬選別 乾いた紙を検査し選別します。



厚みを均等にする熟練の技

漉いた紙は、板の上に積み重ねます

紙の文化に触れて

昨今、はがきや便箋の需要が減っているようです。いにしえの人々は、ゆるやかな時の流れの中で、和紙と向き合い、自分の思いを伝えようと呻吟し筆を運んでいたのでしょう。現代はデジタル社会の進展でペーパーレス、SNSなど何とも忙しく余裕のないことでしょう。ここに来れば、和紙の世界、先人の息吹を感じることができます。是非お運びください。

(「ひょうごの木物語」取材チーム 菅原 健)